

開催報告書

あなたはなぜ進学を？～経験者に学ぶ、進路の選び方～

進化学若手の会 神尾大地

○開催情報

- ・開催形式：zoom によるオンライン形式
- ・実施期間：2026 年 1 月 10 日、2026 年 1 月 24 日
- ・対象および人数：

大学院への進学に興味を持つ学部生や進学後のキャリアパスに悩む大学院生をターゲットとした。今回は学部生が最も多く、次いで修士・博士課程の大学院生の参加があった。また社会人や高校生、研究員、学芸員、教員など、多様な立場の参加者もあり、幅広い層が関心を寄せていることが伺えた。2 日間のセミナーの zoom の最大同時接続数は 1 日目 40 名、2 日目 25 名であった(講演者、幹事を含む)。

- ・イベントホームページ：<https://evowakate.wixsite.com/website/past-events>

○開催趣旨

大学院(修士・博士課程)への進学は、経済的な不安やキャリアパスの不透明さといった障壁から、躊躇されがちである。加えて、修士課程や博士課程への進学理由、さらには各課程修了後のキャリア形成に関する情報が進学前の学生には十分に提供されておらず、この点も障壁となる。申請者の場合も、実際にこうしたことを知る機会は、大学院生や若手研究者との交流会や学会(いずれも年に 1 回程度)しかなく、進学前に悩まされた経験がある。そこで、こうした障壁を取り払い、進学を後押しすることを目標に、各課程へ進学・修了した方々をお招きし講演して頂くセミナーを開催する。本セミナーでは、進学に関わる実際の経験や体験談を交えてご講演頂くことで、進学への不安を解消する。本セミナーは、オンライン形式(zoom)で、『修士課程向け』と『博士課程向け』の 2 回に分けて行う。本企画により、聴衆の進路選択の幅を広げ、また各課程へ進学した際の生活やその後に目指したい将来像の具体的なイメージを抱かせたい。

○広報

- ・本会の幹事が所属する進化学会、動物学会、昆虫学会、応用動物昆虫学会、ペストロジー学会、農芸化学会、農薬学会、衛生動物学会のメーリングリストでの宣伝

- ・ 本会が運営する公式 slack、X(旧 Twitter)、HP などでの宣伝
- ・ 首都圏生物交流会、京都大学 生物科学の会、富山市科学博物館での宣伝
- ・ 本会の幹事が所属する大学のメーリングや掲示板などでの宣伝

※参加者アンケートでは、学会などのメーリングリストで知った方が 50%と最も多く、次いで個人の紹介(30%)、HP やポスター、張り紙、X(旧 Twitter)が各 5%であった。

○開催内容

・ 2026 年 1 月 10 日 (土)

・ プログラム

13:00-13:05 講演会の趣旨と注意事項

13:05-13:50 講演者 1 三浦弘毅 先生

13:50-14:35 講演者 2 岩田朋文 先生

14:35-14:45 小休憩

14:45-15:30 講演者 3 後藤 亮 先生

15:30-15:50 総合討論

※総合討論では、参加者から事前アンケートでいただいた質問を 2 つにまとめて、講演者全員に質問した。また参加者からの追加質問も受け付けた。

【事前アンケートでいただいた質問】

- ①人生設計での大学院へ臨んだ理由。また実際に修了してみた後の人生設計上での効果や影響
- ②今の進路（大学院、研究室、就職先のそれぞれについて）に決めた、または決まった際の考えや経緯

・ 講演の概要

・ 三浦弘毅先生(青森県営浅虫水族館)

林学を学びながら昆虫研究や保全活動に取り組み、多様な自然体験を通じて進路を広げてこられたご経験を語られた。青森での就職・進学の間葛藤を経て大学院へ進学し、ツバキ類の研究に携わった経験を紹介された。また教員志望を経て水族館の道を選び、現在は青森県営浅虫水族館で展示や研究に従事している点が印象的だった。

・ 岩田朋文先生(富山市科学博物館)

地元の自然と関わりながら学芸員・教員志望として進路に悩んだ経験や、博物館での標本管理・外来種対応・普及教育などの実務を紹介された。分類学研究に取り組んだ背景や修士進学の原因、進路における「運」について語り、幼少期からの「虫活」

が現在の活動につながっていることを示された。

・後藤 亮先生(千葉県立中央博物館)

大手コンビニ勤務を経て博士課程へ進学し、パラオ産魚類の DNA 研究を通じて研究の楽しさを再認識した経験を語られた。生物系統地理学や環境 DNA など幅広い研究に取り組み、プログラミング習得の重要性にも触れられた。また学芸員職に就くには「運」が関わることや、修士経験が不利にならないことなど、進路選に役立つ現実的な助言を示された。

・2026 年 1 月 24 日 (土)

・プログラム

13:00-13:05 講演会の趣旨と注意事項

13:05-13:50 講演者 1 椎葉瞭太 先生

13:50-14:35 講演者 2 榎永一宏 先生

14:35-14:45 小休憩

14:45-15:30 講演者 3 中田勝之 先生

15:30-15:50 総合討論

※総合討論では、参加者から事前アンケートでいただいた質問を 2 つにまとめて、講演者全員に質問した。また参加者からの追加質問も受け付けた。

【事前アンケートでいただいた質問】

- ①人生設計での大学院へ臨んだ理由。また実際に修了してみた後の人生設計上での効果や影響
- ②今の進路（大学院、研究室、就職先のそれぞれについて）に決めた、または決まった際の考えや経緯

・講演の概要

・椎葉瞭太先生(大阪府)

修士課程進学の意味や研究経験が就職・キャリアに生きる点が具体例とともに示され、非常に有益な内容だった。再進学や公務員制度に関する実体験の話も説得力があり、大学院での研究時間が後に大きな価値を持つことを示唆された。

・榎永一宏先生(滋賀県立琵琶湖博物館)

「新種を見つけたい」という軸をもとに、修士では分類学、博士からは DNA 解析など、様々な経験を経まえ、これまでのご経歴について語られた。研究環境の変化や就職・学振 PD など実践的な助言も示され、研究職を目指す学生にとって有意義な内容だった。最後に語られた「自分の軸を持つこと」「視野を広げること」「大学院の時間を

大切にすること」というメッセージも印象的だった。

・中田勝之先生(石川県白山自然保護センター)

生き物への強い関心を原点に、社会人として働きながらも研究を続けてこられたご経験について語られた。研究するため早期退職し現在の職に至った経緯は、「好きな道を選び直すこと」の大切さを示された。最後の「自分の好きな道を進みなさい」という言葉が特に印象的だった。

○参加者アンケート

各セミナー修了後にアンケートを実施し、計 20 名の回答を得た。講演内容は 4 段階評価で 90%の参加者が「大変満足した(4)」または「満足した(3)」と回答した。また講演のレベルは、95%の参加者が「大変満足した(4)」または「満足した(3)」と回答した。参加者からは、「進学後の研究・進路の実例を聞くことができ参考になった」や「若手のみなさんの本音がきけて参考になった」など好感的なコメントをいただいた。また本セミナーの進行はややテンポが悪く、この点について、やや厳しいコメントもいただいた。いただいたコメントを糧に、今後のセミナーでは、時間配分などを調整し、テンポよく進行を行いたいと思う。

あなたはなぜ進学を？

～経験者に学ぶ、進路の選び方～

オンライン開催

参加
無料

「生き物が好きだけど、将来が不安」
そんな方へおすすめのセミナーです

第1回 1/10 (土) 13:00 -16:00

修士課程進学

三浦弘毅 先生 (青森県営浅虫水族館)

修士課程進学

岩田朋文 先生 (富山市科学博物館)

博士課程進学

後藤 亮 先生 (千葉県立中央博物館)

第2回 1/24 (土) 13:00 -16:00

修士課程進学

椎葉瞭太 先生 (大阪府)

博士課程進学

榊永一宏 先生 (滋賀県立琵琶湖博物館)

博士課程進学

中田勝之 先生 (石川県白山自然保護センター)

本講演会は中辻創智社セミナー助成の支援を受けています

登録はこちら



各回前日まで

お問い合わせ

進化学若手の会

E-mail: evowakate@gmail.com



告知用ポスター